


視察等報告書

<p>（あて先）横須賀市議会議長</p> <p style="text-align: right;">平成30年 8月3日</p> <p style="text-align: right;">山口道夫 </p>	
実施期日	30年7月24日（火） ～ 30年7月26日（木）
実施場所	千葉県柏市 柏市議会 秋田県秋田市 秋田市議会 青森県青森市 青森市議会
調査事項 （研修内容）	柏市 音楽の街づくり 秋田市 高齢者にやさしい都市・もったいないアクション 青森市 コンパクトシティのまちづくり
参加議員名	市政同友会 会派視察 山口道夫
添付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査、研修 <input checked="" type="checkbox"/> 活動内容を詳細に記載した報告書</li> <li>・ 要請又は陳情活動、会議 <input type="checkbox"/> 要請書、陳情書、開催通知、スケジュール等の資料</li> </ul>

備考 氏名を署名した場合は、押印を省略できます。



平成30年7月24日（火）

千葉県柏市 音楽の街づくりについて

柏市の出席者	議会事務局議事課課長	渡邊浩司様
	〃	議事担当 後藤亮平様
	教育委員会生涯学習部文化課課長	小宮山勉様
	〃	主査 横山左千江様
	〃	主事 古瀬康平様

上地市長が進めている、人が集まるイベントや仕組みづくりのひとつである「音楽の街づくり」について柏市の先進事例を視察した。

渡邊課長様より、議長・局長が出張のため歓迎の挨拶を受けた。

小宮山課長様より、「音楽の街かしわの創出・吹奏楽を生かしたまちづくり」について説明を受けた。

最初に、よこすかとの比較をあげられ、ご当地ソングが横須賀には30曲以上あるのに、柏には10曲もなく残念だし、知名度抜群の海上自衛隊横須賀音楽隊があり羨ましいと述べられた。

柏市の現状の説明では、人口は市のにぎわいに大きく関わっており、現在は増加傾向だが、人口も経済も右肩下がりの時代への対策として、目指す将来像の実現に向けた、重点的に取り組む方向性として「柏市第五次総合計画」で、①充実した教育が実感でき、子どもを安心して産み育てられるまち ②健康寿命を延ばし、いつまでもいきいきと暮らせるまち ③地域の魅力や特性を活かし、人が集う活力あふれるまちを目指す重点事業として、音楽のまちかしわの創出（吹奏楽を活かしたまちづくり）に取り組んだとのこと。

柏市立柏高等学校（イチカシ）は吹奏楽で、全日本高等学校吹奏楽大会5年連続総合優勝・全国マーチングコンテスト金賞・全日本高等学校選抜吹奏楽大会グランプリ受賞など輝かしい実績があり、その影響で市内小中学校の吹奏楽部も活発な活動をしているとのこと。

柏駅前でのストリートミュージシャンと吹奏楽をコラボさせて、まちのイメージアップを図っていく取組みとともに「音楽の街かしわ実行委員会」「柏出身のアーティスト」ともコラボして「音楽の街かしわの創出」をはかっているとのこと。

その取組みとして、①連携・協働では、行政だけでなく柏市立柏高等学校や民間事業団体と協力して取組みをしている。そのひとつとして、それぞれ柏を音楽で盛り上げようとする団体等（ライブハウス・プロミュージシャン・ストリートミュージシャン・音楽教室等）が集結して、「音楽の街かしわ実行委員

会」がたちあがったとのこと。主な活動は、柏市内の音楽に関わる活動および柏市の魅力向上につながる市内外の音楽に関わる活動の支援・情報発信。音楽に関わるイベントの企画運営。柏市の音楽に関わる諸団体の連携・情報交換・親睦。その他目的の達成に必要な活動の4つを主な活動として実行委員会があるとのこと。

②機会の提供では、子どもや大人、幅広い年齢層に提供するとともに、駅前や商業施設など市民が自然に集まる場所での提供に努めており、その活動として管・打楽器音楽教室「かしわ塾」として、小学6年生と中学2・3年生を対象とした吹奏楽ワークショップで2日間にわたってイチカシの先生と生徒が講師となって指導をする機会の提供。5月から11月までの土・日曜日にららぽーと柏の葉センタープラザで行われる「しあわせいっぱい音楽の街かしわ」を実感できる音楽イベントの開催。さらに、現役奏者から学べる機会を提供するものとして、普段から吹いている方も、楽器を久しぶりに吹く方も参加できる「大人向け音楽ワークショップ」の開催など。

③情報の提供では、柏市オフィシャルホームページ内のブログやSNSによる市内音楽情報発信につとめているとのこと。その内容としては、市内音楽情報の収集および発信事業の一環として、様々な方法や機会を通じて広く効果的に発信・紹介することにより、「柏市」＝「音楽の街」というイメージづけの一助として「かしわ音楽大使」を任命し、文化振興や町の活性化を目指しているとのこと。さらに、スマートホンアプリラインライブに柏市の公式チャンネルとして開設し、音楽の街柏で演奏されている音楽イベント・ライブなど様々な音楽を撮影し、リアルタイムで配信し柏市の音楽文化の振興推進を目指し、「柏」＝「音楽の街かしわ」をイメージづける事業をおこなっているとのこと。

最後に、総合計画に位置付けられて2年を経て、3年目を迎えて、これから役所だけでやるのではなく、アクティブな市民団体や企業などさまざまな団体との連携でパワーアップしていき、失敗を恐れず事業を展開していくと述べ、さらに飲食店にもコラボメニュー提供してもらい「音楽の街かしわ」を盛り上げていく取組みを展開していきたいと語られた。そして、連携して活動している飲食店「モンテローザ」で昼食をいただいた。

よこすかでも音楽の街めざしてストリートでのイベントを実施し街を盛り上げているが、柏市のように学校・企業・市民等を巻き込んだ企画ができるように議論していきたい。

7月25日（水）

秋田市 高齢者にやさしい都市・もったいないアクションについて

秋田市の出席者	市議会事務局次長	佐々木準様
	〃 議事課調査担当主席主査	石井 中様
	環境部環境都市推進課課長補佐	村上義紀様
	〃 副参事	尾形浩子様

佐々木次長様より歓迎の挨拶を受けるとともに、佐々木様が横須賀を訪れた時に感じられた、海軍カレーや芸術劇場の印象を語られた。

秋田市長寿社会課エイジフレンドリーシティ推進担当よりエイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）についての説明を受けた。エイジフレンドリーシティの成り立ちについては世界的な高齢化と都市化に対して、WHOが賛同する都市間の交流を目的に設立した「エイジフレンドリーシティグローバルネットワーク」に平成23年に日本の自治体第一号として参加し、30年7月現在で世界660都市・地域が参加し、日本国内では21の自治体が登録しているとのこと。

高齢者にやさしい8つのトピックとは、①屋外スペースと建物 ②交通機関（外出機会の確保） ③住居（居住環境の確保） ④社会参加（閉じ困りにならず） ⑤尊厳と社会的包摂 ⑥市民参加と雇用（経験活かした再雇用） ⑦コミュニケーションと情報 ⑧地域社会の支援と保健サービス 以上を1～2年目が計画段階 3～5年目が実施段階・評価段階 として5年サイクルで継続的な改善のサイクルに沿って取組みをすすめるもので、認定・認証を受けるための仕込みではないとのこと。

秋田市におけるこれまでの主な取組みは、市長公約としてエイジフレンドリーシティ構想の推進に着手し第12次市総合計画の成長戦略の一つに位置づけ・高齢者コインバス事業を開始・市民活動組織「エイジフレンドリーシティあきた市民の会」を発足・エイジフレンドリーシティ通信の発行・シンボルマークを設定・シニア映画祭を開始などに取り組んできたとのこと。

秋田市の行動計画では、基本理念として「高齢になっても地域社会で活動・活躍することができ、いきいきとすごすことができる社会」とし、平成25年から4年間の計画期間とし取組み成果として、行政中心の計画と市民中心の二部構成により、高齢者の社会参加・生きがいくりの促進、市民活動団体による普及啓発事業などを推進し、地域社会全体でエイジフレンドリーシティに取り組む体制の基礎を築くことができたとのこと。

現在第二次計画として「心豊かで活力ある健康長寿社会」を基本理念として、

平成29年度から5年間の計画期間で実行中とのこと。

高齢者コインバス事業については、秋田市内距離に関係なく証明書を見せて1回100円で路線バスに乗車できる制度で、事業開始時は70歳以上が対象だったが、段階的に拡大して現在は65歳以上を対象としており、約89,900名の高齢者のうち55,490人が証明書の発行をうけ、「高齢者の外出促進と社会参加、生きがいづくりを支援」しているとのこと。

バス会社は民間1社で、予算額は1億3750万円計上

エイジフレンドリーパートナーづくり推進事業については、エイジフレンドリーパートナーシティの実現に取り組む民間事業者等を市のパートナーとして登録する制度で「民間サイドから高齢者にやさしい地域社会づくりを促進するとともに、生涯現役社会の推進や、超高齢社会をチャンスと捉えた新たなビジネス創出を目指す」事業で、現在、銀行・ホテル・スーパー・商店街・建設会社・保険会社等88事業者が登録しているとのこと。取組み事例としては、認知症サポーター養成講座や手話講座の受講・健康教室や就活セミナー等の開催・高齢者の積極的な雇用・牛乳配達時の見守りサービスなどに取り組んでいるとのこと。

エイジフレンドリーパートナーシティ普及啓発事業については、「市民の意識啓発、市民活動の促進を図る」事業で、セミナーの開催「人生100年時代をどう生きるか」や、シニア映画祭を6月と9月の毎週火曜日に開催し、高齢者が身近な楽しみを増やし、外出促進につながるよう良質な映画を気軽に鑑賞できるイベントを開催しているとのこと。

高齢者コミュニティ活動創出・支援事業については、「市民主体の地域づくりを促進する」事業で、ボランティア・世代間交流・生きがい就労など、地域における高齢者の様々なコミュニティ活動を創出・支援し、それらの活動によって地域課題の解決が図られる仕組みづくりと体制構築を図ったとして、東京大学高齢社会総合研究機構との共同研究のもと、地域で人と人をつなぐ仕組みを生み出すコミュニティデザインを行う民間コンサルタントの技術を活かして取組み、超高齢社会の今とこれからの考える展覧会「2240歳スタイル～時間を味方にする人生の先輩たち」の開催や、「秋田で長く楽しく暮らす方法を考える研究室」を立ち上げ、ワークショップや公開講座を通し、高齢者が住み慣れた地域でいきいきと活躍するための仕組みづくりと、今後の活動を担う人材育成を実施したとのこと。

最後に、エイジフレンドリーシティの実現のためには、より多くの市民が主体的に関わり、その活動が市全体に広がっていくことが不可欠で、地域社会全体の意識変化を促しながら、行政主導型の市政運営から、行政、民間企業・団体が共同体となり、地域全体でエイジフレンドリーシティの実現に向けた取組

みを推進し、長寿社会をより豊かな社会にして、次世代に引き継ぐことを目指しますと述べた。

よこすかでは、今回はつらつシニアパスの年齢を引き上げることが提案され、議会として付帯決議をつけ行政に制度設計を考えるように決議したが、今回の秋田市の取り組みを研修しその内容を精査すると、横須賀の提案は時代に逆行する取り組みと言わざるを得ない。今後議会として、しっかり議論していきたい。

秋田市環境部環境推進課から、もったいないアクションについて説明を受けた。

導入のきっかけは、6年前に家庭ごみの有料化をしたときに、ごみ袋が高いなどの意見があったが実施により13%の削減効果があり、有料ごみ袋の収入をごみ施設整備や啓発グッズの費用として使うことで理解を得たとのこと。

もったいないアクションの目的は、「人にも地球にもやさしいあきた」を目指す取組みの一環として、食べ物を残さず食べることを啓発し、食品ロスの削減や食品廃棄物の減量を進めるためにこのアクションを推進しているとのこと。

取組み内容としては、①宴会時等に自分の席で料理を楽しむ時間帯「食う〜べいタイム」を設けたり、注文の際に食べきれぬ分だけの注文をすることの推進。

②趣旨に賛同いただける事業所を募り、「もったいないアクション協力店」として、市のホームページ等で紹介するとともに、ポスターやポップを店内に掲示等してもらうことで、食べ残しなど食品ロス削減、ごみ減量に向けた意識の啓発をはかっているとのこと。ポスターは「きれいに食べて きれいな秋田に」

(添付資料)

平成30年4月現在、市内で営業している飲食店・ホテル・旅館・宴会場等の67店舗が協力店として取組みをしている。さらなる協力店の増加を目指していきたいとのこと。

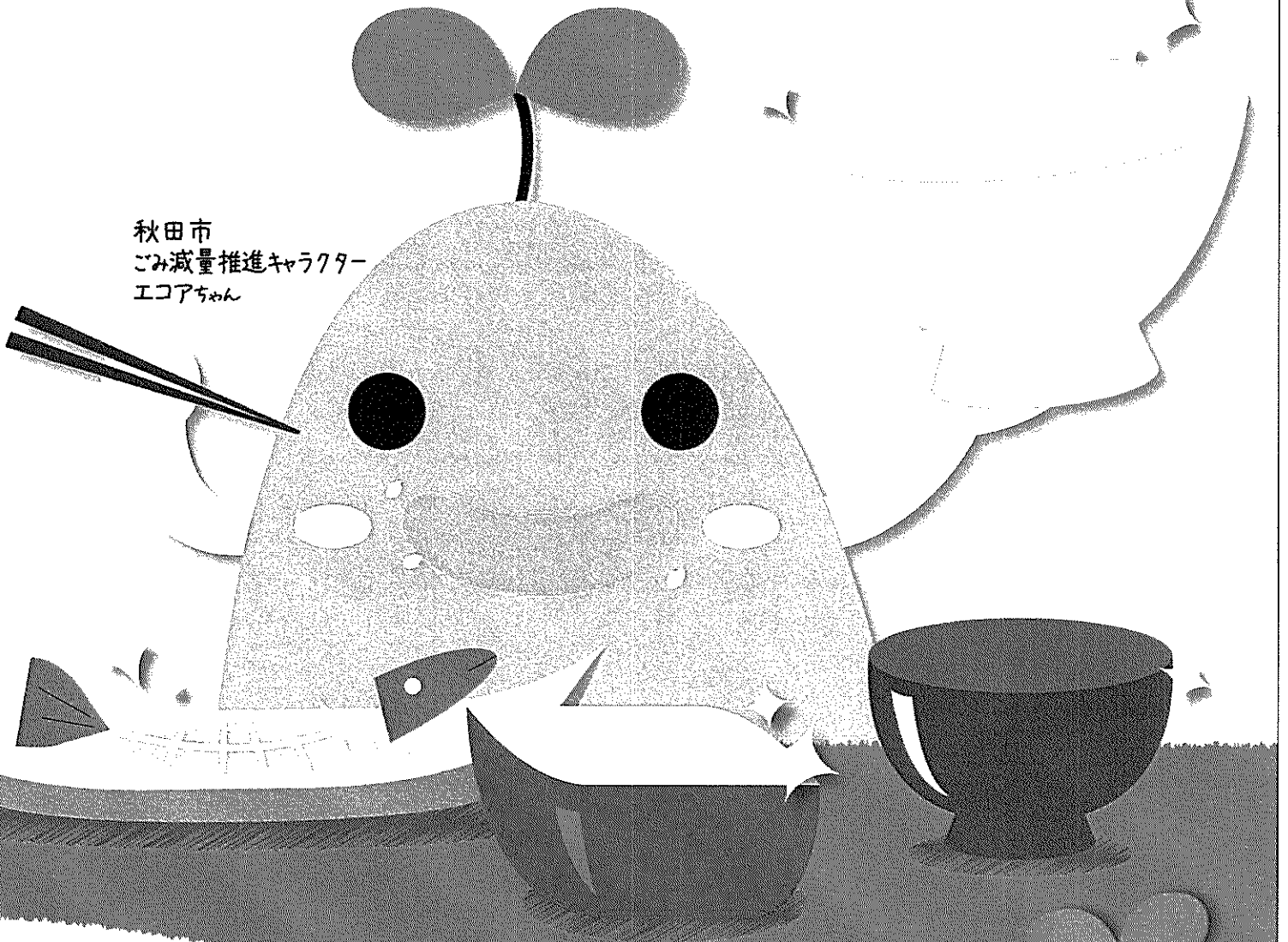
今後のごみ減量化の取組みとしては、ごみ減量のために「もったいない運動」のさらなる推進。協力店で成績優秀な店舗の表彰制度の導入。生ごみ減量のためにコンポスト導入に半額の補助制度。冷蔵庫の中の食品ロスをなくす取組み開始などを実施していくとのこと。

食べ残しを減らすための取組み「食うべ〜タイム」とは、宴会時に乾杯してから30分間とお開き前の10分間などの一定時間を自分の席で料理を楽しんでいただくことを司会者に呼びかけてもらう運動とのこと。(添付資料)

横須賀でもごみ減量に取り組んでいるが、減量の3要素は雑紙の資源化、生ごみの水切り、食品ロス(食品の食べ残し)の減量であるので、秋田市の例を参考に横須賀でとりくめることを議論していきたい。

# きれいに食べて きれいな秋田に

秋田市  
ごみ減量推進キャラクター  
エコアちゃん



秋田市では宴会などで、開始時や終了時に料理を楽しむ時間  
「食う〜べえタイム」を提案しておるのじゃ。  
生ごみの少ないきれいなまちをつくるために、  
ウチでもソトでもおいしく食べることが大切じゃの〜う!

エコアちゃんの  
おいしいちゃん



秋田市環境部

## 食べ残しを減らすための取組（宴会編）

**幹事さん必見！**

### 「食う～ベえタイム」でおいしく食べきろう！

秋田市では、食べ物を大切に残さず食べる取組として、宴会時の「食う～ベえタイム」を提案しています。

#### どうやってやるの？

乾杯してから30分間とお開き前の10分間などの一定時間を「食う～ベえタイム」としてご案内し、自分の席でお料理を楽しんでいただきます。

#### やり方はとっても簡単！

- (1) お店にある、右の「食う～ベえタイム」用啓発POPをテーブルに置いていただきます。

※「食う～ベえタイム」用啓発POPがあるお店は、「もったいないアクション協力店」として、秋田市環境都市推進課のホームページで紹介しています。



啓発POP

- (2) 司会者から「食う～ベえタイム」をご案内いただき、その時間は、自分の席で出されたお料理をおいしく食べきりましょう！と呼びかけていただきます。

#### 【司会者からの呼びかけ例】

みなさん、本日の会では、秋田市が提案している「食う～ベえタイム」を実施します！乾杯後の○分間と、お開き前の△分間を「食う～ベえタイム」としてご案内しますので、その時間はご自分の席でお料理を楽しみ、残さずおいしく食べきりましょう！

きれいに食べてきれいな秋田にご協力よろしくお願ひします



秋田市環境部



7月26日（木）

青森市 コンパクトシティのまちづくりについて

青森市の出席者	青森市議会議長	里村誠悦様
	議会事務局総務課主事	石戸谷浩弥様
	都市整備部都市政策課主査	片岸道悟様
	〃 都市計画チーム主幹	田中大雄様

里村議長様より歓迎の挨拶を受けた。

片岸主査様より、青森市の概要とコンパクトシティのまちづくりについての説明を受けた。

青森市は近隣町村と合併を繰り返して、平成18年に中核市に移行した。人口約285千人で、商業・流通業等3次産業が就業者の約8割に特化した都市で、合併による急激な人口増加に伴い、郊外部での大規模大地の造成や無秩序な開発による不整形な住宅地形成による低密度な市街地の拡大や、まちの顔である中心市街地の衰退がみられるとともに、低密度な市街地の拡大に伴う都市インフラの整備・管理等の都市運営に係る経費が増大するという、市街地の拡大と中心市街地のドーナツ化現象の街の形成となってしまった。その原因としては、公共公益施設（総合病院や図書館等）の郊外移転が中心市街地空洞化を助長してきたとのこと。

また、気象現象として豪雪地帯であるためにコンパクトシティを語るうえで雪の問題は欠かせない問題である。雪は都市形成に大きな負荷となり、青森市の排雪実施延長は青森市から尾道市あたりまでの国道距離に相当するとのこと。市の交通手段の状況は、自動車保有台数は年々増加しているが市営バスの一日あたりの利用者数は、昭和50年の30,512名をピークに平成22年には8,614名まで減少し、鉄道も同じように減少しているとのこと。

都市づくりの基本的な考え方は、市のまちづくりが抱えている問題として、①市街地の拡大と人口の空洞化（ドーナツ化現象） ②都市サービスの郊外化（商業・公共公益） ③中心市街地の衰退・公共交通の利用減少があり、それらの問題を解決するために都市づくりの基本理念に「コンパクトシティの形成・持続可能な雪に強い都市づくり」を進めるために、土地利用での対策・公共交通への対応・都市拠点の整備を基本理念に「人と環境にやさしいコンパクトシティ」を目指す新総合計画を策定、都市の顔である中心市街地地区をはじめとする都市拠点や、日常生活の拠点である各地域それぞれが地域特性に応じた機能を分担するバランスのとれたコンパクトなまちづくりをすすめるとともに、それぞれの拠点を交通ネットワークでつなぎ相互の連携強化を推進してい

くとのこと。

コンパクトシティを形成する都市構造の基本的な考え方として土地利用では、市域には国道と高速道路が横断しており、その導線を利用して同心円状の3つに区分し、各々の地区の特性に応じた都市整備を推進することとし、

- ① 「インナー（人口約13万人）」都市機能の集約、公共交通の充実
- ② 「ミッド（人口約10万人）」良好な宅地供給を計画的に実施、大規模商業施設等立地抑制
- ③ 「アウター（人口約5万人）」市街化を抑制し、自然景観等の維持・営農環境の保全

3つの区分の都市づくりを具体化するため、機能的で効率的な土地利用誘導を図り、おのおのの拠点の役割分担のもとで重点拠点整備を図り、公共交通を基本とする交通体系の確立を主軸においた政策を実施するという基本理念を策定したとのこと。この理念のもと、これ以上まちをひろげないとし、土地利用を大幅に制限し郊外での開発を抑制して、コンパクトシティを推進していくとのこと。郊外開発の抑制は全国で初めてとなる規制で、映画館や流通機関など1万㎡以上の大規模開発集客施設の郊外立地を規制、新市街地は店舗面積の合計が3000㎡を超える建築物の立地を制限するなど思い切った規制を設けたとのこと。

今後は、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の都市づくりについて、

- ① 都市の効率性を高めるコンパクトな複数の拠点づくりとして、市民の生活利便に関するバランスを踏まえながら拠点区域を設定し、それらの区域において、医療・商業等の都市機能の立地の促進を図ることにより、人口減少の中にあっても、市民が持続的に生活サービスを受けられる多極的な都市構造を目指していくとのこと。
- ② 拠点を接続する公共交通ネットワークの有機的な連携をはかることについては、降雪期においても定時制に優れる鉄道と、青森市営バスを含めたバス路線網を最大限に活用し、公共交通沿線に民間の宅地開発等の立地を促進することにより、沿線の人口密度を維持し、持続可能な交通網の形成を目指すとともに、公共交通の利便性が高く快適に暮らせるまちづくりを推進していくとのこと。

最後に、新都市計画マスタープランは、現行の策定から20年近く経過し、プラン策定当時の予測を上回るペースで、人口減少や少子高齢化が進んでいるなど、社会環境が大きく変化してきており、これらの社会環境の変化や土地利用の実情に対応した都市機能の立地の促進など、持続可能な都市づくりを目指し、市の都市計画の総合的な指針として策定したとまとめられた。

横須賀市の立地とは大きく異なるが、追浜をはじめとする市内6拠点を複数

の拠点と捉え、青森市の「コンパクト・プラス・ネットワーク」の都市づくりが参考になるのではないかと考えて、今後議論を深めていきたい。